

ハプスブルクの 豪華な部屋

Japanisch



ALBERTINA

宮殿の歴史

ウィーンのアルベルティーナは世界で最も重要な美術コレクションの一つで、1805年以來ヨーロッパで最も絢爛豪華な宮殿の一つであるこの古典主義建築の中に保管されています。アルベルティーナという名前は、このコレクションの創始者アルベルト・フォン・ザクセン＝テッセン公爵に由来します。マリア・テレジア女帝の娘婿だった同公爵はベルギーの建築家ルイ・ド・モントイエールを起用し、ジルヴァ・タロウカ男爵の所有であったバロック様式の街宮殿に豪華な部屋がいくつもある建物の翼部分を1802年から1804年にかけて増築させました。選び抜いたルイ十六世風の内装品は、パリとベルサイユのフランス王立工房から取り寄せたものです。1822年にはアルベルト公爵の養嫡子カール大公が今やハプスブルクの所有となったこの豪華な広間をフランス帝国風の様式に改築させ、ヨーゼフ・ダンハウザーに気品ある家具や技巧を凝らした床板細工を作らせました。1867年にできた堂々たる歴史主義建築の宮殿正面は、カール大公の長男アルブレヒト大公が作らせたものです。1895年から1897年の間には宮殿の最後の増築が行われ、アルブレヒト大公の甥で養子のフリードリヒ大公の下でいわゆる「スペインのアパルトマン」が作られました。これはスペイン王室が領土外に持つ唯一の別荘です。

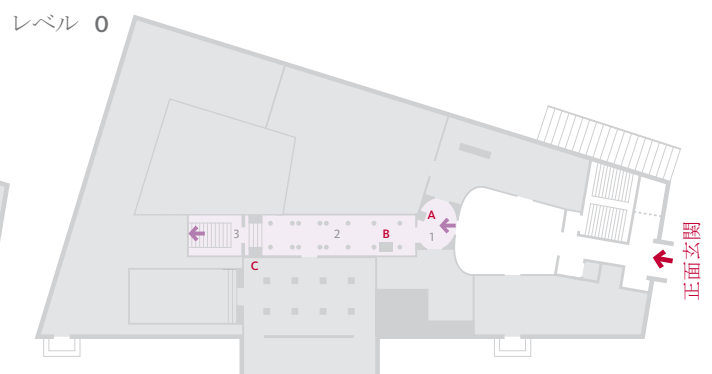
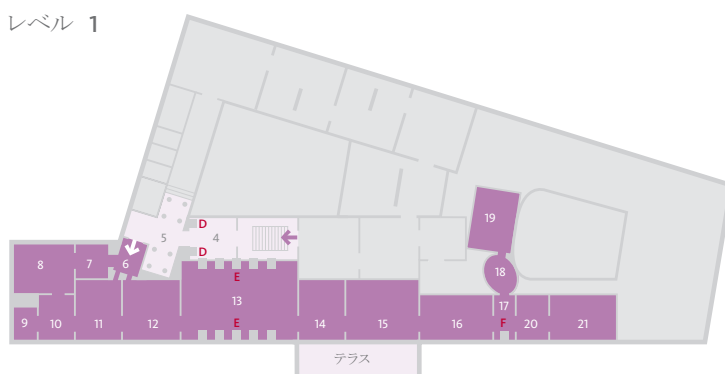


ヤーコブ・アルト、アルベルト・フォン・ザクセン＝テッセン公爵の宮殿、1816年 ©ウィーン、アルベルティーナ

ハプスブルクの豪華な部屋

「ハプスブルクの豪華な部屋」とは、宮殿の一階と二階にある21の部屋のことで、なかでも女神ミューズの広間は両側を豪華な広間にはさまれ、大きさからも絢爛さからも全体の中心をなしています。1919年にオーストリア共和国がこの宮殿を没収してからは、豪華な部屋も図書館、事務所、貯蔵室として使われました。数十年に渡る没落、特に第二次世界大戦後の荒廃の後、クラウス・アルブレヒト・シュレーダー館長のもとで豪華な部屋や歴史的な建物の修復が始まりました。今日では気品溢れる豪華な広間は見学者を絢爛豪華な古典主義の時代へととぎやしません。一方修復された建物は、この宮殿のかつての高い地位とハプスブルクの高貴な住人たちを思い起こさせてくれるでしょう。

- | | | |
|------|--------------|---|
| 記号解説 | 1 ミネルヴァホール | 17 ウェッジウッドの小屋 |
| | 2 柱の廊下 | 18 楕円形の小部屋 |
| | 3 スフィンクスの階段 | 19 カール大公の死去の部屋 |
| | 4 第一玄関 | 20 小さなスペインのアパルトマン |
| | 5 第二玄関 | 21 大きなスペインのアパルトマン |
| | 6 暖炉の間 | |
| | 7 私室 | A ミネルヴァ像(ヨーゼフ・クレーバー) |
| | 8 カール大公の寝室 | B 休む戦士 |
| | 9 金の小部屋 | C スフィンクス |
| | 10 書斎 | D 2人の女神 |
| | 11 ティーサロン | (ヨハン・マルティン・フィッシャー) |
| | 12 ビリヤードの間 | E アポロ神と9人のミューズの女神 |
| | 13 女神ミューズの広間 | (ヨーゼフ・クレーバー) |
| | 14 応接広間 | F アルベルト・フォン・ザクセン＝テッセンの胸像(フランツ・グザーヴァー・メッサーシュミット) |
| | 15 謁見の間 | |
| | 16 ロココの部屋 | |



住人たち

1794-1822

アルベルト公爵とマリー・クリスティーネ大公

アルベルト・フォン・ザクセン公爵(1738-1822)は1766年にマリア・テレジアの秘蔵っ子のマリー・クリスティーネ大公(1742-1798)と結婚しました。結婚のお祝いに公爵領テッセンを贈られたことから、公爵は以後アルベルト・フォン・ザクセン＝テッセン公と称します。公爵夫妻は1780年にオーストリア領ネーデルラントの代官としてブリュッセルに赴任しましたが、1792年には近づくフランス革命軍を逃れてウィーンに戻り、皇帝フランツ二世から贈られたアウグスティナ稜堡のジルヴァ・タロウカ伯爵旧宮殿に居を定めました。アルベルト公爵は1802-1805年にかの有名な素描・版画コレクションを同宮殿に運ばせ、1816年に世襲財産として売却禁止・分割禁止と決めました。創設者の名前は、1870年に初めて使用された名称「アルベルティーナ・コレクション(La collection Albertina)」により今日まで称えられています。

1822-1847

カール大公と ヘンリエッテ王女

1822年にアルベルト公爵の養子のカール大公(1771-1847)がこの宮殿を相続しました。大公妃となったのはナッサウ＝ヴァイルブルクの王女ヘンリエッテ(1797-1829)でした。有名なアスペルンの戦い(1809年5月21・22日)でナポレオンを破ったカール大公は、1822年から1825年にかけてこの宮殿をヨーゼフ・コルンホイゼルに根底からすっかり改造させました。1823年のクリスマスにヘンリエッテ王女は子供たちのためにツリーに飾りをつけて宮殿内に立てたのですが、これがクリスマスツリーがオーストリア中に広まるきっかけになりました。

1847-1895

アルブレヒト大公

カール大公の長男アルブレヒト大公(1817-1895)は、幼少時から軍人になる事が決められていました。宮殿前にある騎馬姿の銅像は、1866年のクストーザでの大公の戦勝を称えて作られたものです。アルブレヒト大公は1847年に父の財産と所有地を相続すると、トラクターに蒸気駆動機関を利用するなど最新技術を駆使して莫大な財産を築きました。

1895-1919

フリードリヒ大公

フリードリヒ大公(1856-1936)は父の死後1874年にアルブレヒト大公の養子になりました。しかし第一次世界大戦中オーストリア・ハンガリー二重帝国の総司令官であったことから1919年に財産を没収され、大公は宮殿および素描・版画コレクションをすべて失いました。一族は保持することを許されたシャンデリア、絨毯、ソファなどの動産だけを持ってハンガリーに逃れました。こうしてかつての絢爛たる「ハプスブルクの豪華な部屋」も1920年以降は、展示室、保管室、図書室、事務室等として使われることになりました。

作者不明、アルベルト・フォン・ザクセン＝テッセン、1777年 © アルベルティーナ、ウィーン | アレクサンドル・ロスリン、マリー・クリスティーネ 大公、1778年 © アルベルティーナ、ウィーン；ウィーン国立図書館からの長期貸与品 | ゲオルク・デッカー(アンテン・アインスレによる)、オーストリアのカール大公、1847年以降 © アルベルティーナ、ウィーン | ヨーハン・ネボームク・エンダー、王女ヘンリエッテ・フォン・ナッサウ＝ヴァイルブルクと長男アルブレヒト大公、製作年不明 © アルベルティーナ、ウィーン | ゲオルク・デッカー、アルブレヒト大公、製作年不明 © アルベルティーナ、ウィーン | 作者不明、フリードリヒ大公、製作年不明 © アルベルティーナ、ウィーン



アルベルト・フォン・ザクセン＝テッセン公爵



マリー・クリスティーネ大公



カール大公



王女ヘンリエッテ・フォン・ナッサウ＝ヴァイルブルク



アルブレヒト大公



フリードリヒ大公

豪華な部屋

暖炉の間、書斎、寝室 地図 → 部屋 6,7,8

「ハプスブルクの豪華な部屋」へは、ヨーゼフ・クリーバー作の等身大の女神像(1823)のある楕円形のミネルヴァ・ホールから入ります。その先の柱の廊下とスフィンクスの階段から主階の豪華な部屋に通じています。第一玄関と第二玄関を通過して、1885年にできた暖炉の間を抜け、最高級の内装品を設えた小さな書斎を抜けると、カール大公の旧寝室に至ります。当初この壁は高価な絹の壁布で飾られていましたが、ここをもっぱら喫煙室として使ったフリードリヒ大公が後に全部除去させました。

金の小部屋と書斎 地図 → 部屋 9と10

この書斎には「ハプスブルクの豪華な部屋」のあらゆる豪華さが花開いたように見られます。カール大公(1822-25)の改造後のこの書斎は、気品高い装飾や選り抜きの素材で実に絢爛豪華です。隣の金の小部屋は、アルベルト公爵の下で作られた内装の質の高さと装飾の豊かさを表しています。この特殊合金(23カラットの金、 $\frac{1}{2}$ カラットの銀、 $\frac{1}{2}$ カラットの銅)は今日まで「アルベルティーナ・ゴールド」というブランド名で知られています。

ティーサロンとビリヤードの間 地図 → 部屋 11と12

真っ赤な壁布のティーサロンと隣の黄色いトーンのビリヤードの間には驚くべき歴史が隠されています。1867年にアルブレヒト大公がこの両方の部屋をすっかり入れ替えさせたのです。そのため部屋を分ける壁を窓の軸の分だけ移動させ、羽目板の装飾から窓、床まで全部取り替えました。(ところで「TEE(紅茶)」と言えば、良質のバターという意味のTeebutterという言葉には、1895年以降TE.E.バター、つまりテッシェン大公領(Te(schener)E(rzherzoglichen))の酪農場のバターがウィーンに納入されていた歴史が残っています。)ビリヤードの間はかつて貴族の晩の楽しみに使われていました。特にアルベルト公爵とカール大公は賭博のようなトランプ遊びよりビリヤードの方がお気に入りだったそうです。

女神ミューズの広間 地図 → 部屋 13

女神ミューズの広間は食堂として使われていましたが、豪華な夜会や華麗な舞踏会が開かれることもありました。五つの見事なシャンデリアが「ハプスブルクの豪華な部屋」を照らし出し、天井にめぐらせたロゼットのフリーズに258本のロウソクを立てて灯りの海のように灯したそうです。高価な大理石模様様の壁と柱、金箔の扉と装飾が絢爛豪華な雰囲気を作り出しています。広間の名称の由来は彫像群「アポロ神と九人の女神」です。大理石に模した白く滑らかな表面の砂岩でできた等身大の彫像はヨーゼフ・クリーバーの作品で、彫刻家アントニオ・カノーヴァの作品にインスピレーションを受けてこの作品を仕上げました。

カール大公の寝室 © アルベルティーナ、ウィーン / 写真: アンナ・ブルク / 家具: オーストリア応用美術館MAKからの長期貸与品 | ティーサロン © アルベルティーナ、ウィーン / 写真: アンドレアス・ホーフナー | 書斎 © アルベルティーナ、ウィーン / 写真: ルーパート・シュタイナー 家具: オーストリア応用美術館MAKからの長期貸与品 | 女神ミューズの広間 © アルベルティーナ、ウィーン / 写真: アンドレアス・ホーフナー



カール大公の寝室

ティーサロン

書斎と後ろの金の小部屋

女神ミューズの広間

豪華な部屋

応接広間と謁見の間 地図 → 部屋 14 と 15

王女ヘンリエッテ・フォン・ナッサウ＝ヴァイルブルクの二つの 応接用広間は1823年以来ほとんど改造されていないので、帝国時代のオーストリア様式がそのまま見られます。しかしオーストリアではこのようなフランス風様式は革命の気運が付きまどうとして皇族や貴族の間ではあまり好まれず、ビーダーマイヤー様式の方が人気がありました。歴史主義様式の家具、レモンの木やマホガニー、ジャカランダ材を使った最高級の床板細工、金箔装飾の磨き技術・組み付け技術、繊細な天井画と壁画には製作者の巧みな技術と素晴らしい趣味が良く現れています。

ロココの広間 地図 → 部屋 16

ロココの広間は豪華な部屋の中で唯一のいわゆる「第二のロココ」様式で作られたものです。1875年にこの部屋を改造させたアルブレヒト大公の姿は部屋にかかった大きな絵「最後の出陣」に描かれています。当初王女ヘンリエッテ・フォン・ナッサウ＝ヴァイルブルクの書斎でしたが、死後(1829年)六人の子供たちの教室になりました。カール大公は包括的な自然科学・人文科学の教養を重要視し、革新的な授業カリキュラムと自由主義的な教育者を支援しました。その一人が法学士で植物学者のルードビヒ・リッター・フォン・ケッヘルで、1862年に刊行したモーツァルト全作品目録(ケッヘル番号)をかつての教え子アルブレヒト大公に捧げたのです。

ウェッジウッドの小部屋 地図 → 部屋 17

この小部屋の特徴は壁に組み込まれた四つの大きな木面で、自然主義的で幻想的で構想的な手の込んだ構図の中に土、水、火、空気という四要素を表現しています。特記すべきは木面に組み込まれた陶磁板です。これはイギリスの工芸家ジョシア・ウェッジウッドの作品で、神話の場面が描かれています。1792年までアルベルト公爵のブリュッセルのラーケン王宮庭園の「太陽の寺院」にありましたが、1792年のウィーンへの逃避の際に一緒にこちらへ運ばれました。

楕円形の小部屋とカール大公の死去の部屋 地図 → 部屋 18 と 19

楕円形の小部屋の壁は、驚いたことに絹布はなく壁紙が使われています。手本どおりに「シュヴァインフルトの緑」という塗料で仕上げた壁紙は1829年の原物どおりにすべて手作業で作成されました。その隣の部屋がカール大公が死去した部屋で、1823年当時の装備品であったヨーゼフ・ダンハウザーによる家具が三対見られます。一部はウィーンのMAK(応用美術博物館)からの長期貸与品ですが、美しい優れたデザインで有名なウィーン手工芸の巧みな技術の粋がよく現われています。

スペインのアパルトマン 地図 → 部屋 20 と 21

「スペインのアパルトマン」は1895年にフリードリヒ大公の下でスペイン王の領土外唯一の別荘として作られました。1885年に亡くなったスペイン王アルフォンソ七世の妃でフリードリヒの妹のマリー・クリスティーネと1886年生まれの息子アルフォンソ八世が1918年までウィーン滞在時によく利用していました。当初は七部屋もありましたが、戦争で損害を被ったため1952年以降は大小二つの住居だけとなりました。どちらも当時のヨーゼフ・ダンハウザー作の家具で設えられています。

謁見の間 © アルベルティナ、ウィーン / 写真: アンドレアス・ホーファー | ロココの広間 © アルベルティナ、ウィーン / 写真: アンドレアス・ホーファー | ウェッジウッドの小部屋 © アルベルティナ、ウィーン / 写真: アンドレアス・ホーファー | カール大公の死去の部屋 © アルベルティナ、ウィーン / 写真: アンナ・ブラウ | 楕円形の小部屋 © アルベルティナ、ウィーン / 写真: アンナ・ブラウ / 家具: オーストリア応用美術館 MAK から長期貸与品 | 小さなスペインのアパルトマン © アルベルティナ、ウィーン / 写真: elwoods.at / 家具: オーストリア応用美術館 MAK から長期貸与品 | 大きなスペインのアパルトマン © アルベルティナ、ウィーン / 写真: アンドレアス・ホーファー



謁見の間

ロココの広間

ウェッジウッドの小部屋

上: カール大公の死去の部屋
下: 楕円形の小部屋

小さなスペインのアパルトマン

大きなスペインのアパルトマン

アルベルティーナ

Albertinaplatz 1

1010 Wien

電話: +43 (0)1 534 83-0

ファックス: +43 (0)1 534 83-199

Eメール: info@albertina.at

www.albertina.at

開館時間

毎日 10時から18時まで

水曜日 10時から 21時まで

ALBERTINA